



エピソード#1 松田雄基とは

🕒 作成日時	@2023年2月24日 16:44
☰ タグ	

このページについて

このページでは、株式会社IMOM 代表「松田雄基」の生い立ちや経歴、現在の創業に至るまでの背景が記入されています。

このページから知れること

 **松田雄基の生い立ち**

 **松田雄基の経歴**

 **松田雄基の現在**

目次

- [このページについて](#)
- [このページから知れること](#)
- [目次](#)
- [生まれ](#)
- [幼稚園時代](#)
- [小学校時代](#)
- [中学校時代](#)
- [高校生時代](#)
- [大学生時代](#)
- [フリーター1年時代](#)
- [1社目の就職](#)
- [1社目退職後（2014年）](#)
- [2社目の就職（2014年-2016年）](#)
- [起業した1年（2016年）](#)
- [2期目（2017年）](#)

[3期目 \(2018年\)](#)
[4期目 \(2019年\)](#)
[5期目 \(2020年\)](#)
[6期目 \(2021年\)](#)
[7期目 \(2022年\)](#)
[つまり松田雄基とは](#)

生まれ

岐阜県下呂市の下呂病院で3月23日に生まれた。下呂温泉の中心街にある病院。そのまま半年ぐらい下呂の母の実家で過ごす。

愛知県名古屋市緑区滝の水に4歳頃まで住んでいた。

母と近くの消防署に消防車を見に行くのが日課で毎日通った。また同じアパートに偶然同じくらいの年の子が2人住んでいて、子供だけで公園で砂遊びをしていた。アパートは当時の普通のアパートで4戸。今思えば家に遊びに行ったりもしたのですごく近所付き合いの良い方達が住んでいた。

3,4歳ぐらいの時から、1人で電車に乗って下呂に行くことを何度もした。母に名古屋駅のホームまで送ってもらい、1人で特急電車に揺られ、下呂駅のホームでおばあちゃんが迎える。

“1人でも気にせずやりたいことをやる”はこの時に身についたのかもしれない。

5歳になる頃、父の実家に住むことになり名古屋市天白区原に引越す。

幼稚園時代

家から1番近かった原幼稚園に入園した。他の子より1年遅れて年中から。理由はわからないが、おそらく母が専業主婦で入園させる必要もなかったからだ。

入園当初は母さんと離れるのが嫌で、毎日校門で泣いていた。しかし1週間もすると友達と遊ぶことが楽しくなりすぐに幼稚園に馴染んだ。活発な幼稚園児で、友達と追いかっこや、泥団子作りをよくしてた。他の園児が作った泥団子を見ていないところで壊したりしていたいたずらっ子な部分もあった。幼稚園の授業中に勝手にかくれんぼを始め、遊戯室の舞台の下に隠れたりして、先生がものすごく探して困

らせたりすることも楽しんでいた。

“なにかに楽しみを見出す”ことはこの時に身についたのかもしれない。



幼稚園時代



幼少期時代

小学校時代

学区内の名古屋市立原小学校に通った。

小学1-2年生の頃は、近所の家でピンポンダッシュをしたり、友達をいじったりをよくしていた。勉強は普通ぐらい。1年生のプールの授業で先生に泳げないことを言われ、悔しくてスイミングスクールに通う。その後バタフライまでできるようになった。近所のサッカースクールに入って、2年間ほどサッカーをやったり、ピアノ教室にも通っていた。思えば親は習い事をたくさんさせてくれた。

人生で初めて買ってもらった漫画は名探偵コナン。アニメが始まる時期だったこともありすごくハマった。コナン君みたいになりたいと思い将来は探偵になりたいと思ったり、勝手に推理していた。名探偵コナンをきっかけに、図書室にあったコナン・ドイル、アガサ・クリスティ、江戸川乱歩を読みふけた。

“細かいことや、なにかに疑問を持つ”ということは間違いなくこの時コナン君を愛読していたからだと思う。

小学3-4年生の頃は、友達と毎日のように近くの天白公園で遊んでいた。当時サバイバル系の番組がやっていて秘密基地を作るのが物凄く流行った。土日は母に弁当を作ってもらいみんなで1日天白公園の山に籠って秘密基地を作った。寒くなると秘密基地を作れなくなり、遊戯王に移行しみんなでもとても熱中した。初めて部活動に入部したり、好きな女の子ができた。入部した陸上部では何度か瑞穂陸上競技場に行き、帰り際に2人で話してドキドキしたのを覚えている。

小学5-6年生の頃は、ブームが終わりつつあった遊戯王カードを売るようになった。ちょうど近所でフリーマーケットがよく開催されていて、カードショップより高く売れる。売れないカードでも売れる方法を考えて売りまくった。確かトータル3万円程。それが初めての商売経験だったと思う。その売上を元手に新しく学校で流行ったマジックザギャザリングのカードを購入した。

名探偵コナンや推理小説はその頃には何周もして、ハリーポッターを読んで引き込まれたのも高学年の時。

またニンテンドー64で007のゲームが流行ったことから映画を見るようになりこれもはまった。ジェームズ・ボンドのような冷静沈着で紳士な男がかっこいいなと強く思った。

コナン、ハリーポッター、007全てイギリスに関係するものでこの時からイギリスに憧れを持つようになった。低学年の頃は探偵になりたいと思っていたが、素行調査ばかりという探偵の現実を知り、スパイになりたいとこの頃思っていた。

“感情の起伏がなく、なるべく冷静でいる”ようになったのはこの時からだと思う。

中学校時代

学区内の名古屋市立原中学校に通った。

入学時に身長が146cmしかなかった。小学生の頃から変わらず背の順は前から三番目以内。当時バスケットをやると身長が伸びると言われていたことと、スラムダンクがやっていたこと、友達が誘ってくれたこともありバスケット部に入部した。

仮入部をして楽しいし入部しようと思ひ、入部届けを出した初日に体育館のドアを

開けると、顧問の先生が先輩をビンタしていた。どうやらバスケット部の顧問の先生は、全中で4-5回優勝させてる先生で、その先生に教えてもらう為に越境して入学する人がいたくらいすごい先生だった。

当時50歳くらいの女性の先生。平日は朝の6時半から7時半朝練。放課後は、19時や20時まで練習はざら。休日も半日か9時18時で練習。年に2,3回県外へ合宿。月に1回休みがあればいいほうだった。1年生の秋の新人戦ぐらいから先生から練習中、試合でも罵声を浴びせられるようになった。1年生の冬の合宿の時からビンタが解禁されて年の瀬にビンタされた。そこからバスケット部員として1人前になり練習中も試合中も境目がなくビンタや罵倒されるようになった。

中学2年生の時に先輩と一緒に後輩の水筒にソーセージを突っ込んで、先生に1時間程怒られる。先輩が引退した後、同じ学年のバスケット部の友達が引きこもりになってしまい、バスケット部のみんながよくその子の家に行った。その甲斐もあって部活に来るようになり、最終的に学校にも来るようになった。

この頃から“勉強をする意味を見出すことができず、勉強のやり方もよくわからなくなった”

中学3年生の時に、同学年のバスケット部の半分は顧問の先生のクラスになる。問題児が多かったからだろう。夏の総体でエースだった子が試合中で16回ファールをもらい退場。16回のフリースローを全部決められて負けた。市ベスト8だった。とても悔しかった。

バスケット部のことを振り返ると、練習は本当にしんどくて、言い訳を作ってサボることもあった。

ただ、自分の意思で入部した以上、中途半端に投げ出したいくないという考えは強く辞めたいと思うことはなかった。仲間がいることも心強かったし、3年間やりきりたいなと思っていた。

また、仲間と一緒に全国を目指すという経験が物凄く楽しかったし、チームを支えるために試合に出ていた。



初めてピンタされた下呂の遠征

高校生時代

岐阜県立益田清風高校に通う。

高校1年生の時は、中間テストで数学が21点。期末テストで0点を取るくらいに数学が苦手だった。部活は中学の時のバスケット部で大変だったため、高校では真剣な感じではなくゆるくやりたいと思っていた。

部活紹介でバスケット部は真剣な感じで大変そうな印象を受けたから諦めた。綺麗な女性の先輩がいて、運動量もなさそうな弓道部に入部することにした。しかしそれは間違いで、バスケット部は弱小校だったが弓道部は強豪校だった。

運動量はないが、所作立ち振舞に厳しく、先生から弓で手で叩かれたり怒鳴られることもあったが、中学自体に培った鋼のメンタルで何も動じなかった。体育の授業中に先生から「なんで名古屋から下呂に来たんだ？」と質問され、親が離婚したからと答えたら、授業後にすまなかったと先生から言われた。**なんでこの人は謝るんだ**と思った。自分だけが1人名古屋から来て、他の学生はだいたい市内から入学。中学時代から繋がっている子が多く、自分が異分子的存在だった。

この時に人生で初めて**“自分がマイノリティな立場に置かれた”**と実感した。

総合学科では1年生の秋に、2年生から専門的に学ぶ、言語コース・福祉コース・商業コースを選択することになる。言語コースは、通訳や翻訳のイメージがありハードルが高い、商業コースは数学が苦手だった。福祉コースを選んだのは、当時テレビで「これから日本は福祉国家になります」と何度も耳にしたから福祉コースを選択した。



岐阜県立益田清風高校の校舎

高校2年生からは福祉コースで介護福祉について学んだ。勉強が苦手なのは変わらず、当時使っていたガラケーにメモをしてカンニングをすることもあった。スライドするタイプの携帯電話だったから、コンパクトにカンニングできた。しかし同じ学年の子に先生に告げ口されて3日間謹慎になる。次のテストでも懲りずにカンニングを行い今度は2週間停学になる。

復学するための条件は反省文を10枚書き、合格をもらうこと。また修学旅行が沖縄だったが、行きたいなら期日までに受理されるものを書けかけと言われた。毎日夜遅くまで反省文を書いて受理され、復学もできたし修学旅行にも行けた。なぜか修学旅行中も毎日反省文を書かされた。

部活動も休部させられ、部活に戻りたいのであれば誠意を見せろと言われ**躊躇なく坊主にした**。レギュラーも外され、2ヶ月程1年生と一緒に雑務をやっていた。2ヶ月は弓を持たせてもらえなくて年末最後の練習日にようやく1本だけ弓を引かせてもらえてすごく嬉しかった。

また、今でも大好きなバンド、**ELLEGARDEN**と**出会ったのはこの頃**。自分の思い通りにならないことが多かった中でとても勇気づけられた音楽だった。

高校3年生の時は部活の練習を頑張りレギュラーに戻ることができた。平日も休日も1人でも残って練習した成果だと思う。**地区大会で優勝して、県大会で3位になり、東海大会に出場した**。男子弓道部初の快挙でとても嬉しかったのを覚えている。

冬には介護福祉士の国家試験があり、福祉コース全員で金沢に受験しに行った。試験前日の夜、一部の人と遅くまで大富豪をして遊んだら翌日先生に怒られた。寝不足の中受験したが問題なく合格した。

進路の話では進学か就職どちらにするかを考えたが、当時福祉職で国家資格を持って就職しても給与が15,6万円で**手取り12万**。これはやっていけないと思い進学を選んだ。

福祉の3大国家資格の社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士があり、社会福祉士と精神保健福祉士を取りたいと思い、かつ名古屋に戻りたかったので日本福祉大学、同朋大学、淑徳大学の中から同朋大学を選択した。

理由は名古屋駅に1番近かったから。勉強が苦手だったので推薦で入試を受けたかった。

問題児だったが素行態度や弓道部での頑張り进行评估され指定校推薦をもらえた。**入試後その場で合格と口頭で言われびっくりしたが、そもそもFランクの大学で定員割れしていたから通常の入試でも問題なく合格できた**と後から気づいた。

アルバイトは2つした。初めてのアルバイトはコンビニでバイトだったが、オーナーと合わずすぐにやめた。次はガソリンスタンド。ガソリンスタンドでのバイトは一緒に働く人も楽しく良い人ばかりだった。

ガソリンの違い、車種によってガソリンが入る量が違うこと。トラックに入るガソリンの量がとても多いこと。新鮮に感じるが多かった。



高校生時代



ELLEGARDEN ヴォーカル 細美 武士さん（左）と20歳の頃の松田。

大学生時代

同朋大学に進学。

大学1年生の時は、入学前のオリエンテーリングで仲良くなれる友達ができ。入学後のサークルの紹介ではボランティアサークルに出会う。

そのサークルの先輩から

「ボランティアしたら就職に有利だから入りなよ」と勧められボランティアサークルに入る。

活動内容は県が運営する重度身体障害児の入所施設に週に1回行き、児童に勉強を教

えたり話相手になること。

年に2回程イベントがあり、企画や手伝いを行う機会もあった。

先輩達がボランティアに対して真剣に取り組んでいてカッコよかったから同学年の誰よりも真面目に取り組んだと思う。

バイトはサークルの先輩の紹介で大学近くの障害児が通所する
放課後等デイサービスで働いた。

介護福祉士の資格を持っていたので、

当時名駅や栄で働くより高い時給で働くことができた。業務内容も楽しく学童の延長線の仕事であった。秋頃から同級生と遊ぶ機会が減り、先輩と遊ぶことが増えた。気楽であったことと、可愛がってもらえたこと、音楽の趣味が合うことが理由。授業はサボりがちだった。

大学2年生の時は、1年生の頃と変わらない生活だったが、先輩が引退してボランティアサークルの部長になった。

施設に入所している児童と触れ合うのが楽しかったのはもちろん、その子達に良い時間を届けたい、それを届けられるのは僕が1番できると思っていたから立候補した。

放課後デイのバイトは続けていたが、先輩の紹介で寿司屋でのバイトも始めた。名古屋駅のタワーズに入ったそこそこいい感じの寿司屋。ホール担当。

当時は今より体の線が細く、髪も長かった為女の子に間違えられることが何度もあった。

店長や板前さんから可愛がってもらっていて、ネタを食べさせてもらっていた。この時味覚が良くなったと思う。

世渡り上手なのもあって、2年生が終わる頃には単位は3/4取ることができた。

大学3年生の時は、サークル活動も終盤を迎えていたが、活動に参加するメンバーが減った。

参加しない理由は様々だったが予定があるだとかバイトだとか納得ができなかった。定例の部会で施設の子どもたちは、僕らが来ることをとても期待している、ボランティアの予定も急に決まるわけじゃない、バイトも個人の予定も調整できる、それでもボランティアに行けないのはおかしくないかという話をした。

部長としてやるべきことをやり、言うべきことを言ったが、うまく伝わらず、学食に呼ばれ、

メンバー12人对僕1人という構図で責められた。

理解できなかったが平謝りをして和解し引退まであるべき状態でボランティア活動することができた。

大学4年生の時は、単位もほぼ取り終わっていたこともあり、**できるだけ大学に行かないようにしていた。**バイトと友達との遊びに時間を使っていた。

夏頃から進路を考えたが、高校から福祉のことを学んでいたこともあり福祉職の中で考えた。

公務員は全然興味がなかった。

病院は出世したとしてもヒエラルキーの中で一番下だと考えたので選択肢には入らない。

社会福祉法人は完全に縦割り社会のイメージで、役がつくのに時間がかかる。

だから民間かなと思っているの中で、サービス管理責任者の資格を知る。当時有資格者の給与が25万円。福祉職で見たら高い給与。取得条件が資格と実務経験。大学在学中に放課後デイで4年勤めていたこともあり、そのまま1年放課後デイでバイトを続けて資格要件を満たすことにした。

明確な目標があったので、周りが就職したり、

就職しないの？と言われても全く何も思わなかった。関係が薄い子からは理解はされなかった。内定が出たからという理由で何も考えずに就職をしている周囲に違和感があった。

卒業旅行は、イギリスとスペインに行った。

当時はHISやJTBのツアーが主流だったけれど、ツアーだと高いから自力で航空券とホテルを取って安く行くことができた。

ロンドンロンドンは小学生からずっと憧れていた街。滅多に感動することはない僕けど、終始感動した。ホームズの舞台となった場所、ハリーポッターのロケ地、MI6の本部と007のロケ地。初めてのイギリスを満喫した。

スペインではバルセロナに行った。せっかくなのでFCバルセロナの試合が行われている日に行こうとなり、大学の友達4人と予定を合わせた。試合観戦は日本のコンダクターを使用すると10万円ぐらいと言われたが、「地球の歩き方」とネットで調べると現地で安く買えると知り現地のチケット売り場で拙いスペイン語でチケットを買えた。確か5千円ぐらいで日本の10万円のチケットより格段に良い席で見ることができた。

試合前にメッシのシャツを4人、シャビのシャツを1人が買って試合観戦をしたらメッシが4得点、シャビが1得点で

買ったシャツの通りになり試合終了後めっちゃくちゃ盛り上がった。

旅行の話は今でも友達との間で話題に上がる珍道中だったが、大学生活で1番楽しかった思い出かもしれない。



大学時代

フリーター1年時代

フリーターは1年間だけと決めて、大学時代にバイトしていた放課後デイで勤務を続けた。他の放課後デイのことも知りたくなり、別の事業所でもアルバイトをした。

大学時代からのところは法人がそこそこ大きく組織的であったこと。創業して間もないところで働いてみたいと思い、探して見つけたので働いた。

結局2ヶ月ぐらいでその放課後デイは辞めてしまった。なぜ辞めたかという、社長と共同創業の2人が現場で頑張る状況で2人に合わせるのが大変だった。

2人の意に沿うことでなければ受け入れられないといった、現場に経営者の色が強く出るのはよくないなと悟った。

1社目の就職

23歳-24歳の時。

サビ管の資格要件を満たすことができたので、自分で決めた約束通り就職をした。サビ管で募集していて、サビ管研修を受講させてくれる会社を探した。障がい者のグループホームと就労継続支援B型を運営しているNPO法人に入社。入社当時はグループホーム4棟とB型1施設。

面接の時に、「お前はどうかりたいんだ？」と聞かれ、「**出世したいです!**」と答えたら、若くして出世するのであれば、人の何倍も働かないといけないと言われた。

それはその通りだなと思った。実際に働いてみたら、ルーティンの仕事が多くすぐに消化できるものばかりだった。色々任せてもらいたかったので、日に何度も上司や社長に仕事を下さいとお願いした。

最初は細かい仕事を渡されて消化していくの繰り返しだったが、徐々に大きな仕事も渡してもらえた。当時障がい者グループホームは少なく、精神科病床の削減といった国の方針もあり、重度の精神障がい者の方の利用がどんどん増えていった。途中から株式会社として、高齢者のグループホームやショートステイ、デイサービスも始めた。

社訓は謙虚と感謝。社長に会うたびに唱和しろと言われ「謙虚と感謝」を10回言っていた。仕事が欲しいかと聞かれ、

「やります、やります、やらせてください」とも何度も唱和していた。

ある時から「夜勤をやるか？」と言われ、「**やります、やります、やらせてください**」と言い、やることになった。イメージは週に1回とかのイメージだったが、1ヶ月毎日夜勤だった。

日中は障害者のグループホームで勤務、夜は高齢者のグループホームで夜勤というシフトは毎日20時間のものだった。

自分自身成長したかったし、やれる自信もあったので頑張れた。

そんな生活が半年程あり、2年目の6月30日に7月のシフトを渡されて確認したら、毎日20時間のシフトだったのが、毎日22時間のシフトになっていた。

これは流石にできないと思い、社長にできないと言ったら、「お前こんなこともできないと出世できないぞ？」と言われて、

それなら出世しなくてもいいやと思った。

その日に一気に糸が切れて即日退職した。社長から労働基準法的に退職願いは退職日の1ヶ月前に提出する義務があると言われたが、そもそも労働基準法が守られてい

ないんだからと断固拒否した。

自分の限界が1日20時間であることを知った。

1社目退職後（2014年）

退職後、私は2週間も泥のように眠り続けた。毎日15時間近くも寝ていたと思う。親からは寝てばかりで心配されたが、過酷な労働から解放されたことに安心している方が強かった。

2週間経つと、体調もすっきりとし、働きたくなった。前職のB型を見て就労支援に興味を湧いたので、サビ管で募集している就労支援事業を探した。

いくつか候補があったが、

名古屋市中区丸の内で就労移行支援をしているところに決めた。7月中に内定をもらい、8月から勤務することになった。

決め手は福祉っぽくなく、自分に合っていると思ったことだ。

2社目の就職（2014年-2016年）

就職先は、丸の内の就労移行支援事業所。24歳-26歳の時。

当時の僕の福祉のイメージとはかけ離れていて、出社はスーツ、場所も街の中のオフィス街に、事業所内も綺麗だったし、働いているスタッフも福祉職出身は1人だけ。母体の事業が人材紹介、コンサルで福祉的な会社ではないからと福祉職出身の僕を気にかけてもらえて良い人ばかりだった。

自分が社会人になってから接していた人とは違う世界の人ばかりだったのでとても魅力的だった。既存のサビ管がいたため、すぐにはサビ管業務はできなかったが、事業展開予定があるからという形で入社。60歳くらいの既存のサビ管の方からは若いという理由でいびられることが多かったが、あまり気にならなかった。

しかし、悔しかったので言われぬように勉強することで徐々に認められ気に入られた。

移行支援での業務内容は、一般企業での就職を目指している障害者の方たちにmicrosoftのオフィスの使い方を教えること、ビジネスマナーを教えること、社会性について教えることを行っていた。オフィスの使い方やタイピング速度はここで身についた。利用してくれる人にサービスを提供する上で、教える側がパソコンが拙いとサービスとして成立しないのは言うまでもない。

運營業務の中で毎日の記録の記入がある。当時その会社は福祉ソフトを導入してい

なかったのでExcelで記録を記入していた。

毎日同じような文章を打つのが面倒だと思い、関数や入力規則を使って、事務作業を80%ほどカットした。

それまで3人で2時間近くかかっていた業務が1人で1時間くらいで終わらせることができるようになった。

それにより8:30-18:00勤務で、15時には自分の日次の業務が終わっている状態を作ることに成功。15時から18時はかなり時間ができたので何か企画するか、先輩から仕事もらうかをしていた。

そもそも入社して1週間ぐらいで、

「こんなに仕事が楽で良いのか？」と疑問に思うようになっていた。前職で社畜をしていたからその名残であることは間違いないが、1日8時間、週2日休み、これではなんの成長もないと早いうちに思った。

ただ時間があることは良いことだと思い、

自己投資に使ったり、問題課題の発見をして解決する。

自分自身のことや環境を働きやすくするというところを行った。

また、事業所がある錦2丁目長者町では、年に1回長者町通りを道路封鎖して「えびす祭り」というものを行っていた。2日間で10万人来場者がある名古屋でも特に大きなイベントである。

プロジェクトとして出店し、「利用者が作ったもので売上をつくろう。そこから町内の会社の人と仲良くなって利用者を就職させるんだ。」となった。

初回のイベントは一定成功し、次回のえびす祭りの実行委員をやることになった。

思った通り町内の人と仲良くなることができたが、仲良くなり過ぎてしまった。町内のまちづくりの一環のことにも顔を出すようになり、たくさん飲みにも連れて行ってもらった。

社長の友達が増えたのはえびす祭りがきっかけである。

当時は僕だけ20代で周りの人は4,50代だったこともありとても可愛がってもらった。

今までと違った景色を見ることができるようになったことと、物事の見方が大きく変わった。

経営者はこういうことを考えるのか、こうして成長していったのかなど学ぶことがとても多かった。

起業した1年（2016年）

2016年6月、僕が26歳の時に、1社目で働いていたNPOの役員だった人から一緒に会社をやらないかと打診される。

1週間考えさせてくれという話をし、周りの人に相談をした。会社員の人達には、辞めた方がいいと言われた。

「失敗したらどうするのか」

と。

しかし社長の友達には、やった方がいいと言われた。誰もが社長をするチャンスは来ない、ただおススメはしないと言われた。当時はなぜおススメしないかは理解できなかったが綺麗に意見が別れ、**社長をやっている人たちが言うのだからと会社やることにした。**

当時は会社の作り方も分からずなにもわからない状態だった。**えびす祭りがきっかけで仲良くしていた小島さん**という方が実は税理士で、右も左もわからない僕に親身になってくれ、時には尽力してもらい**無事に会社設立をした。**

1社目のNPO法人が倒産し、運営していた事業を引き継いで運営するという話。相方は900万円準備してきたので、お前も900万円出せと言われた。**銀行を行脚したり、親族にお金を貸してほしい**と頭を下げて、なんとか銀行から1000万円借りることができた。親族にお金を貸してほしいと言うのはすごくためらったが、税理士であり経営を教えてくれた小島さんに、「親族を頼るのはあまりしたくない」と相談したら、「**なぜやらない理由を作るんだ**」と叱責されてハッとさせられた。そこからはとにかくやるしかないと**どうしたら目的を達成できるか考えて行動するようになった。**

無事資金調達もでき事業を始めようとしたが、破産管財人が入ってきて、債務整理ができるまで事業所への立ち入りはできないと言われた。破産管財人と交渉し、什器備品については買い取る形で決着することができた。

行政への申請の兼ね合いで

2016年10月14日にカフェをオープンし2週間後の2016年11月1日にB型をオープンした。

B型にした理由はいくつかある。

1社目に働いた会社が運営していたB型は時給ベースで約20円程。就労移行支援サービスを使ったけど就職できなかった人たちがB型に行くことがありそこでも時給ベースで40円とか。数あるB型事業所を見学する中で、就労支援サービスなのに、就労支援サービスが提供できていないなど。最先端の就労移行支援を見ていたので、先端と末端との乖離を物凄く感じていた。

B型という業態に社会課題を物凄く感じたので、B型のみを行おうと思った。A型だと集客が楽だったり、集客のことを考えてA型とB型の多機能にするという選択肢もあったがB型だけで運営することにした。それはやはり昔から問題解決をしたいということがとても好きだったから。

起業した当初は、**理想は掲げつつも黒字にしないといけない**と思った。カフェは1日1万円も行かない日もザラにあったし、B型も1日3人しか利用者がいないこともあった。飲食も就労も合わせて月の売上が150万円しかなかった。それに対して、社員は4人いて人件費だけで100万円もあり、仕入れや家賃、借入金の返済等で150万円程あり、毎月約100万円が通帳からなくなっていった。

当初長久手のカフェは朝7時から開けていたこともあり、6:30-9:00はカフェで仕込み、接客。9:00-10:00で利用者の送迎。10:00-17:00まで現場対応、18:00-24:00まで税理士の小島さんのところに行き勉強をするという生活を1年続けた。2期目が近づくタイミングで、通帳のお金がなくなりそうだったが、売上が徐々に上がっていき倒産を免れた。**年商2000万円**で着地。



創業1期目

2期目（2017年）

事業を進めていく中で自分のバックグラウンドにない**コーヒー、飲食店経営について学び始める**。飲食の考え方が変わった。コーヒーというものでも、スペシャルティとコマーシャルは完全に別物だと認識した。1期目は兎にも角にも**会社を黒字化しないといけない**と思ったが、2期目になると少し外に顔を出すことが増えた。

様々なお店に行くことができ、自分が今まで触れたことのないセンスや雰囲気を感じることができ、なんとなく飲食として事業を成り立たせるイメージがついた。どうやって**就労支援とシナジーを生むか**、頭の中にはあったが、知らないことには具体的なイメージが沸かない。やりたいこと、目指す場所、方向性がカフェのスタッフに上手く伝わらず、社内で避けられるようになりカフェに行くことが辛くなった時期もあった。

大学時代のサークルで起きたことを思い出した。就労支援については自分の考えが正しかったと悟った。1期目は兎にも角にも会社を黒字化させないといけなかったが、体制も落ち着きやりたいことを落とし込んでいった。働けない人が働くことについて学ぶ場所にしていく必要があり、さらに働くことで得られる充実感の提供が必要だと認識した。

当時事業所内にカーペットが敷いてあり、休憩時間中に睡眠をしている利用者がいた。そういうスペースでもなく隣で別の人談笑しているのに地べたで睡眠する。これは

働く場所ではないと思い、カーペットは撤去した。利用者同士でいざこざがあったりもしたが他責にせず、自分を責めすぎないように事業所のルールを作り運用することでトラブルはかなり減った。事業所でトラブルが起きるのは基本的に職員の責任。

サービス利用者が悪いということは基本的にありえない。それも含めて働くことが困難なわけで、そういった方に働く機会を提供して、能力を高まった人に対して一般就労させる、それが就労支援である。働く環境を整えることも就労支援であるとし、より良い事業所運営を目指して改革を行っていく中で共同創業の人が辞めた。

理由は3点。


「事業に対する熱量」「掛ける時間」「生み出した成果」にどんどん開きが生まれていったから。一緒に走っているつもりが、どんどん離れてしまった。

3期目（2018年）

12月にIMOM長者町がOPENした。長者町に出店した理由は、長者町に恩返しをしたかったから。自分が社長をやれているのも長者町でよくしていただいた方々のおかげということもあった。

就労支援事業2拠点目IMOM長者町オープン

就労継続支援B型 IMOM長者町
Disability services and support organization

 <https://goo.gl/maps/64WZeKDACiJTdg4AA>



4期目（2019年）

7月にイオンでイベントを行った。キザニアみたいなもの作った。教育委員会の認可を取って、名古屋市内の学校にパンフレットを配布した。

「利用者の工賃を上げたい」というところから始まった。結果、イベントは大成功。3000人が来るイベントを主催することができた。

東京ビックサイトで行われるSCAJに出た。

Specialty Coffee Association of Japan

一般社団法人 日本スペシャルティコーヒー協会の公式Webサイトです。

 <https://www.scaj.org/>

5期目（2020年）

会社名をIMOMに変更した。

飲食事業2拠点目名古屋市南区にParlor IMOMオープン

Parlor IMOM（パーラーイムオム）

★★★★☆・カフェ・喫茶

<https://goo.gl/maps/yQGfddkixJhJVMkL7>



6期目（2021年）

就労支援事業3拠点目IMOM丸の内オープン

就労継続支援B型 IMOM丸の内

障害者向けサービス & 支援組織

<https://goo.gl/maps/u6Znv7pw1mAnF7997>



飲食事業3拠点目Little toy boxオープン

LITTLE TOY BOX

★★★★☆・コーヒーショップ・喫茶店

<https://goo.gl/maps/36HBBzgYBt7Frrdp6>



飲食事業4拠点目焼き菓子とコーヒーパーラーイムオムオープン

焼き菓子とコーヒー パーラーイムオム

★★★★☆・洋菓子店

<https://goo.gl/maps/1Duo7HC8PRu8SZnG7>



7期目 (2022年)

現行期。試練の1年。

就労支援事業4拠点目IMOM金山オープン

就労継続支援B型 IMOM金山

障害者向けサービス&支援組織

<https://goo.gl/maps/kYt1kYHuVAE7RCnD9>



飲食事業5拠点目IMOM COFFEEオープン

IMOM COFFEE

★★★★☆・カフェ・喫茶

<https://goo.gl/maps/maAJHq7XPYvqHeix6>



つまり松田雄基とは

松田雄基は

- 1人でも気にせずやりたいことをやる
- 勝ちたい、負けず嫌い

- 感情の起伏があまりない
- 細かいことや、なにかに疑問を持つ習慣がある
- 問題課題解決が大好き
- 目的達成のためなら頑張れる
- 無駄なことが嫌いで生産性を上げることが好き
- やらない理由をつくらない
- ELLEGARDENが大好き

という人間である。つまり問題解決したいマン。

細かいことも気になるし、些細なことも疑問に持つ。だから問題提起も多いし、首を突っ込んでしまう。特に無駄が気になる。僕の今の目的は、誰もが生きやすい、寛容な社会をつくること。だから週7日働くことはなんとも思わないし、頑張れる。それで自分が成長できるなら最高。

でも、ELLEGARDENのライブがある時はライブを優先したいです。

© 2023 IMOM Inc.